

チャレンジ！逗子カーボンニュートラル2050 “Challenge! Zushi Carbon neutral 2050”

近年、日本各地そして世界中で、極端な気象現象（熱波、暴風、局地的豪雨等）が毎年発生し、その影響は気象現象が発生した地域だけにとどまらず広範囲に渡っています。このことは、温室効果ガスの排出がもたらす地球温暖化と深いかかわりがあることが指摘されています。

そして地球温暖化は、私たちの日常生活にその一因があることはいうまでもなく、今のまま大量生産・大量消費・大量廃棄の暮らしを続けたその先には、あらゆる生物の生存が脅かされる未来が待っています。これまで多くの生命を^{いのち}生み育んできた地球環境を持続可能なものとするのか否か、私たちは今、その分岐点に立っています。

本市はこれまでも、SDGsが目指す持続可能でよりよい社会に向けた市政に努めてきました。2020年には、本市総合計画に、改めて「SDGsの観点からの行政運営に取り組んでいく」ことを位置付けています。

また、本市では、青い海とみどり豊かな自然環境を未来に引き継ぐために、市民団体や事業者と協力した環境イベントや自然観察会の実施など、温室効果ガス排出抑制の推進を図ってきました。2017年3月には「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定し、同年6月には地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE（クールチョイス）」に賛同し温暖化対策を推進することを宣言しました。市内における温室効果ガス排出量は減少し続けておりますが、2050年カーボンニュートラル実現のためには更なる行動が必要です。

国では、衣食住や移動といったライフスタイルに起因する温室効果ガスは全体のおよそ6割と言われ、国民一人ひとりのアクションが不可欠とされています。本市においても、住宅都市という特性から、生活全体に関係する温室効果ガス排出の大幅な削減が必要となり、市民一人ひとりの「ライフスタイルの変革（イノベーション）」が必須です。

逗子市は、市民の安全・安心を守り、生活や文化を未来に継承していくため、

チャレンジ！逗子カーボンニュートラル2050 “Challenge! Zushi Carbon neutral 2050”

をスローガンに掲げ、市民・事業者と一体となり、国や他の自治体とも協力しながら、2050年温室効果ガス排出実質ゼロを目指してまいります。

一人ひとりがこの地球の未来を想い、数百年後の子どもたちが今と同じように笑顔で過ごせる、そんなまちづくりを共にしていきましょう。

2022年（令和4年）1月31日

逗子市長

